



マーク制作: 関知磨子 (秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

融合研のホームページは、<http://www17.u-page.so-net.ne.jp/qc5/you-go/>

ゆらこ

2002.3.25

本号の内容 (盛りだくさんです。お好きなところからどうぞ。)

- 1 冬季フォーラム(静岡県富士宮大会)の状況
富士山学習 屋台発表・対談・分科会・懇親会・ふれあいタイムetc. アンケートより
- 2 事務局会議より
富士宮フォーラムの総括
福岡フォーラムの日程決まる
・日時 ・開催場所 ・講演者 ・全体進行案 ・基本理念 ・後援団体
・分科会案(実践事例案、本部事例案) ・その他 ・交通アクセス
融合研の本部組織について 会員の意志確認について
今後のフォーラム開催のありかた 東北支部の設立 その他 (フリートークより)
- 3 その他
会員のメールからの情報 (土屋美智子さん)
本の紹介「庄子平弥の挑戦」 本の紹介「常識不信」

以下は、次号でお知らせします。他の人も事務局まで連絡ください

会員の活動情報より

島根県「綺羅星21」 松山市PTA研修会
千葉県ボランティア集会
(融合研・君津市LIT・市川市ナーチャリングコミュニティ・市原市ピオトープ)
新聞・雑誌の掲載記事
新聞; 十勝毎日新聞11・24 ・北海道新聞12/25 ・日本教育新聞1/18
新潟日報12/15 ・12/25 ・岩手日日11/27 ・産経新聞1/13
現代教育新聞3/1
雑誌等; 岸裕司 (体育科教育1月号、千葉県小・中学校校長会報2/15、かがり火1/25
学校図書館1月号、悠12月号)
越田幸洋 (学校図書館1月号・社会教育12月号)
プログラムバンクについて

大成功！！「融合研 冬季フォーラム2002 in富士宮」

静岡県富士宮市では、富士山の麓のという地域性を生かして「富士山学習」という名のもと、全学的に新学習指導要領による「総合的な学習」が実施されています。その一端の発表から始まった「富士宮フォーラム」は、各セクションとも大成功のうちに終了することが出来ました。その様子を報告します。（なお、融合研のホームページでもご覧になれます。URLは、上記タイトルの下段です）

今回は、当初予想を大きく上回り150名もの参加だったため、資料の残部はほとんどございません。どうしても欲しいという方は、発表者本人に直接交渉してください。

富士山学習の発表

富士宮市内各小中学校による「総合的な学習」は、地元の財産である富士山に因んだ学習の発表でした。5校がステージ発表、他の学校はホールで展示発表という形をとりました。

ステージ発表は、ほとんどが地域の方との学習で、

井の頭小学校；水の恵み豊かな猪之頭

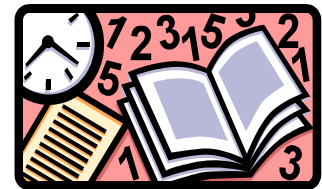
井之頭小学校根原分校；おいしい根原大根を作ろう

富士根南中学校；再発見「富士根カルタ」

東小学校；東から伝えよう 広げよう みんなの祭

北山中学校；未来予想図～すみよい北山～

富丘小学校；富丘の水を追って



と、地元の宝である富士山を題材とした学習は領域も内容も盛りだくさん。さらに発表の仕方も、劇風・放送局風・パネルディスカッションと多彩。また、児童数6人の「井之頭小学校根原分校」は、1年～5年までの全校児童がステージに上るというトータルな発表でした。会場からは、子どもの健気な姿に思わず涙する人も続出。どの発表にも大きな拍手が送られました。

屋台フォーラム

毎回のフォーラムでは、分科会発表希望者がたくさんおります。そのため、分科会発表に入れなかった方が提案する「屋台発表」は、融合フォーラムのもう一つの目玉です。4つの会場に分散し、ポスターセッションのような形で、膝を交えてご自身の実践を「語り合い」「ヒントをもらって」また「懇親会前に仲良くなる」という効果があります。今回の屋台発表は、

宮崎稔(習志野) 渡辺正親(新潟) 日原・山崎(静岡) 齋藤浩一(宮城) 濱元
伸彦(大阪) 渡辺広幸(宮城) 川上明彦(静岡) 坂本祐二(和歌山) 油谷雅次(大
阪) 渡辺喜久(静岡) 堀越幾男(東京)

の人たちがしてくれました。実践に基づいた多様・多様な内容は、どこも迫力満点で参考になるものばかりでした。また、映像を活用したビジュアル発表が目立ったのも今回の特徴で、夜半から降り出した雪にもめげず、どこの会場も熱気がありました。

なお、宮崎会長が『秋津小の10年前』は、学社融合の原点とも言うべき取り組みのスタートを、教員とPTAとで作成した資料『あけぼの(復刻版)』は、一部100円でお分けします。欲しい方は事務局まで(送料の方が高いかな)。

また、渡辺正親さん(新潟)が市立十日町小学校の学校づくりに向けたプロジェクト「夢のある学校づくり」のビデオやニュースレターを元に熱っぽく語りましたが、このビデオは、カンパ(1万

円)をしてくれた方には贈呈されます。

懇親会・セリ市

融合フォーラムのもはや名物となった「懇親会・セリ市」は、今回も盛況かつ大盛り上がりでした。会場が青少年宿泊施設のため、夕食を食べてからの開催になったので、たくさんのおいしいご馳走が残ってしまうという惜しい面もありました。しかし、名産品をせり落とすセリ市あたりから盛り上がり始め、全員が自己紹介をしたので、北は岩手、南は愛媛からの20都道府県から参加ということもあいまって、初めての参加者や遠方からの参加者もすぐにとけ込めて仲間がたくさんできたようです。とくに今回は、大学生が10人かつ6大学からの参加ということもあって、若い熱気も会場を盛り上げることにつながりました。そうして夜もあちこちの部屋で遅くまで談笑が続いていたようです。

ビッグ対談 (記録は、末尾に)

全体会に続いて行われたのが、「文部科学省高等教育局専門教育課長 西阪昇さん」と「富士宮市教育委員会教育長 藤井國利さん」とのビッグな対談(聞き手は、岸裕司副会長)。富士宮市教育行政のトップで、学社融合にきわめて熱心で実践の裏付けがある藤井教育長と前任が文部省の西阪さんの対談は、各地域でのこれからの実践に大きな示唆を与えていただくことができました。

分科会 (記録は、末尾に)

各分科会とも地元富士宮の発表者と融合研会員とのセット発表が行われました。アンケートにもあるように、どの分科会も内容が豊富で参加者からは、全部に出たいという悲鳴にも似た叫びが聞こえてきました。各地での実践の確かな広がりを感じることができます。

ふれあいタイム

今回から取り入れられたのが、「まだ帰りたくない」「もっと話したい」という比較的近くの方たちによる『ふれあいタイム』。雪が降ってきて心配だったのですが、40人ほどが残り、あちこちで輪になり、ゆるやかに親交を温めていました。

アンケートから (回収20名)

『融合研のフォーラムは、相変わらず時間めいっぱいなのでアンケートを書く時間もないよ。』と言われるほどの過密スケジュールだったので、回収は少なかったのですが、概ね好評でした。

1 あなたは、このフォーラムについて何で知りましたか。

- (8名)会報
- (10名)人に誘われて(それはどなたですか)
- (2名)その他()

2 このフォーラムは、何がよかったですか。(いくつでも)

- (14名)富士山学習発表会 ; (9名)ステージ発表 (5名)展示発表
- (14名)屋台フォーラム
- (17名)夜の懇親会・セリ市
- (9名)2日目の対談
- (9名)分科会 ; 第1(2名) 第2(1名) 第3(4名) 第4(1名)
- (9名)ふれあいタイム



3 このフォーラムに対するご意見・ご希望

- ・ 鹿沼に続いて2度目の参加でしたが、参加するたびに自分自身とても元気になります。いろいろな人との出会いが良い経験になります。今後も続けてください。
- ・ 学校・地域・行政の立場でのいろいろな貴重な話がうかがえるこのフォーラムは、本当に有意義だと思います。私たちの活動を考え、一歩進むための原動力です。
- ・ はじめて参加しました。要項を見ただけでしたので、あまりよく知らない中での参加でしたが、驚きの連続でした。今、学校に勤める者として大いに刺激を受けました。すぐにできることばかりではありませんが、ここで学んだことはこれから先大いに役立ちそうです。
- ・ 初めて知り、初めて参加しました。
- ・ 先進的な取り組みに来て良かったと思いました。
- ・ 初めて参加させていただきましたが、参加者の熱意に驚かされるばかりでした。他県の方の取り組みは大きな刺激となりました。同じような課題や問題点についても貴重な話を伺えてよかったです。
- ・ 初めての参加でしたが、本番はもちろん夜もたいへん参考になりました。
- ・ 富士宮市の取り組みが素晴らしいと感じました。ここでフォーラムが出来たことは良かったと思います。また参加します。
- ・ 様々な事例発表を聞くにつけ、目からうろこの状態です。また多くの自治体・団体からの交流が魅力です。
- ・ 同じ目的を持った多くの人と話が出来て良かった。またがんばれると思えた。富士宮の方々の対応がよかったです。時間が無くて分科会の最後まで聴けず残念でした。ありがとうございました。
- ・ 時間の都合上、難しいことはよく分かっていますが、どの屋台どの分科会もたいへん興味深く多くの実践例に触れることのできる絶好の機会が同時に行われるのはもったいない。一つずつしか聴けないのがとても残念に思われます。
- ・ 融合を考えるために、こんなに各地からいろいろな立場の人が集まっていることに感激しました。
- ・ 屋台フォーラムは、できるだけ多く聞きたかったが、2カ所が目一杯でした。開始時間を決めておいていただくと回りやすかったのではないのでしょうか。
- ・ いろいろな地域の活動がよく分かり、視野が広がる良い機会だと思います。また自分が活動するにあたり、よい知恵を得られる機会だと思います。
- ・ 初めて参加させていただいたが、堅苦しいお仕着せの研修会でない中で、純粋な気持ちで研究課題に入り込みたいへん有意義な勉強となりました。参加して良かったと思います。
- ・ 毎回フォーラムに参加すると「私たちの活動は、間違っていないんだ。」と元気と自信でパワーアップして帰ることが出来ます。同じ静岡でありながら、行政の考え方・姿勢一つでこうも差があるんだとガク然。どうぞ、私たちの地域にもこの活動の風が届きますように。そして私からも発信していきます。そして文部科学省も、もっと現場の先生にまで方針が行き渡るよう一層の努力を！
- ・ 前回から参加させていただきましたが、今回もいろいろと勉強になりました。個人ではなかなか考えや実践できないのですが、先進的な取り組みを教えていただき、自分なりにアレンジする事で一歩ずつ進めていける気がしました。惜しげもなくたくさん情報を教えていただけるので、本当にありがたいです。
- ・ 回を重ねるごとに、ますます広がりや深まりを感じます。MLも楽しみであり、かつ刺激的です。屋台フォーラムは好企画と思いますが、時間が十分とれず、残念でした。運営を含め、工夫が必要と思いました。

- ・初めての参加でしたが、たいへん勉強になり刺激になりました。学社融合の方向性を少しは見る事ができた思いがあります。
- ・初めての参加ですが、お互いに学びあいをすることはとてもよいことと思い参加しました。これからは毎年参加したいと思いました。もっと、時間的な余裕が欲しい。他県の人とももっと話があった。

4 学校と地域の融合教育研究会に対して

() 関心がない

(17名) 関心がある

それは、どんなことですか。

- ・参加された皆さんの熱気に影響を受けたこと
- ・全国各地の取り組みについて
- ・今まで全く知らなかったので、なにしろ驚き大きい
- ・これからどんどん拡大していくと思います。また学校単位や地域でも試行錯誤が繰り返されると思います。研究会メンバーが優越感を表に出さずにサポーターに徹して欲しい。
- ・地域の人に関わると生徒がいい意味で変わると思うし、地域の人が変わると思う。新潟県聖籠町で12年間、中学校の教科の中に、普通のおばさん(食生活推進協議会)が入りました。実際にやってきて言えることは、お互いに学びあえるということです。
- ・各地で展開されている実践、それぞれが深まっているのが分かります。その地域から更に周辺の町へ・県全体へもっと広げなければ・・・次回はまた別の市町村(自治体)が参加していることを願います。めざせ、47都道府県、フル参加!!
- ・今の時代、コミュニティの必要性を強く感じます。その中で融合を実施していくのに、どう行動していくか模索中です。情報をたくさんありがとうございました。参考にして、自分の地に湧いてくるものを創る手助けをしていきたくおもっています。
- ・地域によって融合が進んでいるが、日本全部の学校で融合していくことができるのか。
- ・ネットワークによる情報収集、元気の素。MLは、毎日パソコンを開けるのが楽しみです。
- ・自分の勤務校はニュータウンに位置し、各地から転入生ばかりですが、学校だけですべてやろうとしても無理です。いかに保護者や地域の方と協力してことに当たるかが課題です。今後は他地域でも必ず、重要な課題になります。
- ・きわめて先進的な事例があり、研究会に参加するのを楽しみにしています。
- ・生涯学習のありかたについて

5 その他(どんなことでも)

- ・いろいろな活動と、みなさんが頑張ってやっていることに驚き、自分たちもくじけずにがんばりたいと思いました。教育は学校だけ、教師だけに任せておけばという人たちが私の周りには多数います。教師の方々も、なるべく関わって欲しくないという人たちも多いです。とても悲しいことです。地域の中に学校があるということをもっと多くの人に理解してもらうためには、一体どうしたらいいのか。それが今の私たちには最大の課題ですが、自分のしていることが間違っていないと言う信念でがんばっていきたい。
- ・夜の懇親会・二次会等で本気で話をしてくれる人たちがたくさんいて嬉しく思います。自分の意見ばかり主張しないで、私たちのささいな意見にも耳を傾けアドバイスしていただける方もいてくださり勇気も出ました。地域に帰っても今の気持ちの俣、前に進んでいきます。「出過ぎた杭はうちにくい」を教訓にして、子どもの笑顔を支えにがんばります。
- ・懇親会の料理、もったいない。教育上よくない。
- ・子どもたちの発表力がとても優れていると思いました。「富士山学習」のますます進化することを楽しみにしています。できることならまた来たいです。スタッフの方々ありがとうございました。
- ・資料を参考にさせていただきます。
- ・富士山学習の発表会では、その学校・どの子どもたちも一生懸命取り組んでいる様子が分かりました。

なかでも大宮小の展示ではクイズで参加することが出来、解説する子どもたちの間近で聞けて良かった。（表情が分かるってステキ！）北山中学校の発表ではセリフが自分たちの言葉で繰り広げられていて勢いがあった。各校のコメントがあらかじめ用意されていたように感じられたのは残念です。子どもの言葉が聞きたかったナ。戻ってからじっくり資料を見てみたいと思います。

- ・ 富士宮市の活動のすばらしさに感動しました。特に教育委員会に生涯学習課があり、活発な活動に驚きました。やはり読書と読み聞かせ推進事業には、富士宮市のようなバックアップが必要だと感じました。
- ・ 子どもに関わる家庭教育（基本的しつけ・家事労働・思いやりの心の育成）に問題があること。そこにもっと家庭のあり方に目を向けて実現できる学社融合を、学校5日制とあわせ検討する立場から取り組むことが急務であると思う。
- ・ やはり懇親会の残飯、もったいないにつきました。ごちそうがメインではなく、出会いや離すことがごちそうなんだけどなあ。向かい合いで一方通行ではなく丸く輪になって話す場があったら、地域側の多くの人に参加しやすいと思います。この辺りが行政が気づかないところなんですね。越田先生・庄子さんにお会い出来なくて残念でした。庄子さん、本を購入しました。次回は是非サインを。
- ・ 富士宮の関係者の方からお世話になり、本当にありがとうございました。
- ・ 残念ながら、東京都23区の参加者がほとんどありません。何らかの方策を考え、宮崎会長・岸副会長のご指導をお願いできればと思います。たいへんお世話になりありがとうございました。
- ・ 学生さんが、活躍していました。

事務局会議より

3月7日（木）18：00より、岸副会長の会社で恒例の事務局会議が行われました。

今回は、富士宮フォーラムの総括と共に、融合研の肥大化にともなって、事務局体制やフォーラムのあり方・支部活動等、これからの融合研の進むべき道についてが中心になりました。

1 富士宮フォーラムの総括

アンケートやメールでの感想にあるように、非常によい評価を得ることができました。一方で、「行政が主体になっていると担当が変わったりすると衰退する例があるので、そこまで考慮して体制づくりを考えたらよい。」「いくら学社融合が良いことだとしても、住民のやってみたいという自発的な心の動きがないままで行くと、お仕着せになる。」というような辛口の批評もありました。富士宮がそうであったということではなく、行政が音頭取りをしている事例が多い今だからこそ、こういう意見にも耳を傾け心して取り組んで欲しいところです。

しかし、いろいろな感じ方があってこそいいのであって、こうでなければいけないというものを押しつけるものでもない。融合研は声の小さな人もタブー無く語れる会であるという原点を大事に、これからも何でも言える会であるという姿勢を貫いて行こう、という結論になりました。（フォーラムの詳細は、前述。）

2 福岡フォーラムの日程決まる

夏の融合フォーラム（通算１１回目）が、初めて本州を離れて学社融合に着実な実践をしている、九州の「福岡市」を会場に開催されます。これまでのフォーラムの実績と反省点を生かして、おもしろいフォーラムになりそうです。今、現地の担当者と本部の責任者（岸副会長）とが、メールや何度かの打ち合わせをしながら、計画を詰めています。現在までに決まったことを報告します。なお、会場の都合上、日程は「お盆の帰省客で混む時期」にせざるを得ませんでしたので、チケットの手配等も含めて参加できるように、今から計画していただきます。現在までに分かっていること、及び案は下記に。

融合研創立５周年記念&初めて西日本で開催「融合フォーラム２００２in福岡」

岸副会長を本部実行委員長に、徳永恵美子さん（融合研№153・私立東和高校ボランティア部顧問教諭）を福岡現地実行委員長に福岡市の現地で２回合計１０数人参加で事前会議を進めています。初めての西日本での開催であることから今回の参加者の主力対象エリアは、九州全域＋四国＋中国地方＋一部関西エリアになると思われます。

<これまでに決まったこと>

- ・ 開催日：８月１０日・１１日（土日）
- ・ 開催会場：福岡県立社会教育総合センターでの一泊二日（本部より予約済）。とにかく安い！宿泊は４５０人可能です。

〒８１１－２４０２福岡県粕屋郡篠栗町大字金出３３５０－２ / 電話０９２－９４７－３５１１
/ FAX ０９２－９４７－８０２９

福岡空港・JR博多駅・地下鉄天神駅から各バスで３０分位の場所です。

綺羅星７フォーラムでパネルディスカスのコーディネーターを勤めた今村隆信さんが企画課長のセンターです。

- ・ 講演者：寺脇研文部科学省審議官（生涯学習担当）本部より予約済＊１１日（日）午前中の講演＋フリートーク（予定）
- ・ 全体テーマ案 さあ本番、挑もう！学社融合の教育創造！ / 子どもがつなく学社融合

<全体進行案>

□ １日目

- ・ 午前中福岡市立の複合学校見学 □ 希望者へのオプションツアーの可能性を含む。
- ・ 全体会：挨拶程度
- ・ 分科会：九州や地元の事例と会員の事例をセットで（静岡県富士宮市でのフォーラムのように）
- ・ 屋台フォーラム：４～５つのグループに分かれて各自１０分程度で実践の発表をする。
- ・ 懇親会＋セリ市：親睦が主旨。分科会や屋台フォーラムで知り合ったり関心を持った方同士がより親睦を深め、以後の交流に活かす。

セリ市は、各自からの寄付を原則に名産品を持参しセリをする。セリ落とした方と提供した方との親睦の出合いを創る。収益金は融合研の収入とし次回のフォーラム等に充当する。

□ ２日目

- ・ メイン講演者：寺脇研さん

- ・ 寺脇さんと会場参加者とのフリートーク又はパネルディスカッション

< パネルディスカスの場合の宮崎案 >

(仮)：学校と地域の融合～それぞれのアプローチから

パネラー案：学校側＋行政側＋地域側＋コーディネーター

- ・ ふれあいタイム（昼食後のフリートーク）： 自由に関心のある方向士が集い語らう場。話したりない、聞きたりない方の出会いの場。

< 福岡フォーラム開催にあたっての基本理念 >

- ・ 学社融合事例をソフト＋ハードの両面から出したい
- ・ 事例は□現地＋□本部としたい
- ・ 終わって現地に根づくようにしたい



< 後援団体について > 現在、検討中も含まれます

- ・ 福岡市教育委員会（政令指定市）／北九州市教育委員会（政令指定市）／福岡県教育委員会（2政令指定市以外の市町村すべてを所轄）／福岡市／熊本県教育委員会／長崎県教育委員会ほか九州・四国・中国地域の各県教育委員会／西日本新聞社／日本教育新聞社／（財）全日本社会教育連合会（月刊『社会教育』発行所）、他は本部が例年通りに申請する
- ・ J C（社）日本青年会議所や（社）日本経済同友会・福岡支部等についても検討する
- ・ 『西日本新聞』で実践事例校等が早めにわかればで6月位から取材して連載紹介したいとの申し入れ有り□フォーラムの告知案内もしてくれるとのこと：融合研会員の堺記者からの申し入れ＋東方面は東京報道部の記者が取材する
- ・ 見学複合学校案□1日目の土曜日 10：00～11：00 頃・候補校□博多小学校□南風台小学校（土曜日の市民図書館開館）

< 分科会内容案 - 現地＋本部の意見を含む > この中から、いくつかをおこないます

- ・ 総合的な学習の模擬授業
- ・ 子どもが参画しての会場とのやり取りを含むフォーラム（小学生の時に総合学習を受けた中学生7校が参加）
- ・ 学校の安全と地域のノーマライゼーション□池田小事件を踏まえて鹿沼フォーラム同様に
- ・ 初めての学社融合□毎回必要な分科会との認識で一致しています。
- ・ 完全学校週5日制実施後の休校土曜日の受け皿づくり／月～金の学社融合に高齢者や参加しやすい方々と授業を創る
- ・ 地域とともに歩む学校づくり
- ・ 行政と創るまちづくり
- ・ 先生の願いが花開く学社融合（「総合的な学習の時間」づくり）

< 実践事例案 > この中から可能なものを行います

- ・ 福岡市全11区の「アクティブメイト」＝まちづくり企画課所轄事業＝市民の自主まちづくり企画を行政が支援
- ・ 福岡市立若久小学校区他の学校のコミュニティルーム化事例

- ・ 福岡県古賀市立花鶴小学校フェスティバルの紹介
- ・ 北九州市市民局推進の「7つの校区でのまちづくり推進モデル事業」より
- ・ 北九州市小倉区の「総合型地域スポーツクラブ」の事例紹介
- ・ 北九州市類似公民館の試み（公民館に「類似」する住民による自主・自律・自己管理の公民館施設と運営）
- ・ 他、今後現地の事例を募る

本部の事例案は、多数考えられます。発表したい人はご自身でも連絡ください。

<その他>

- ・ 屋台フォーラムの募集□本部で開始する
- ・ 発表資料の形式□A4又はA3二つ折りに統一する
- ・ 発表資料は発表者が必要部数を印刷し現地に送る
- ・ 書籍の販売□推薦対象書籍や雑誌の選択を会員から募集する□現地の販売委託出版社があれば委託を検討する
- ・ 参加費（富士宮フォーラムは¥1000でした。学生は半額）
- ・ 上越フォーラムのような実行委員会の組織化になるメーリングリストを作成しよう

<本部の意見>

- ・ 当日キャンセル者の未納者を防ぎたい□「参加費の事前納入」を図る□了承
- ・ 「参加費の納入」とともに「受付はがき」を出す□当日の受付に役立つ□了承
- ・ スケジュールが過密にならないように配慮をしたい
- ・ 受付に全体の進行がわかるポスター掲示
- ・ 屋台フォーラムの発表時間の厳守□進行役を付ける
- ・ バスをチャーターする場合は利用者から別途徴収する□了承
- ・ 開催当日の現地の人と本部の手伝い者との「合同打合せ」を必ず行うこと□了承
- ・ 夕飯を食べながら懇親会ができるかどうか□会場のセンターと相談する
- ・ 会場のセンターとの打合せをする担当者は徳永さん□了承

3 融合研の本部組織について

融合研も会員数の増加にともなって、活動が活発になると共に事務量が増え、本部・事務局体制も再編の必要に迫られてきました。そこで現在、次のような案のもとに検討が加えられています。検討の大筋としては、「業務を部体制にするとともに、部の独自性のもとに事務をするということ。」

現在までの案では、

研究部；従来のプログラム開発委員会を中核とする形で、現在、メーリングリストを通じて進行中の「プログラムバンクの作成」にも関わる。

広報部；会報の発行、ホームページの更新など会員への情報提供に関するを行う。

事業部；年1回のフォーラムの開催に関わる本部側の責任者とする。開催地域とのパイプ役となる。

事務局；会全体の事務を統括する。内容的には、「会計」「会員のデータ管理」「メーリングリストの管理」「渉外に関すること」等を行う。

というような案です。なお、今、冬季に行っている冬季フォーラムについては、「ミニフォーラム」の形をとって、本部業務とは切り離して行うようにしたいと思います（詳細は、次の項目「4 ミニフォーラムについて」を参照ください。）

上記の事務局案について、ご意見のある方は連絡ください。

役員は立候補制を採りたいと思いますので、是非、多くの方の立候補をお待ちしています。

また、推薦できる方をお知り合いの方はご連絡ください。

集まって会議を持つことが難しい場合もあるので、支部（地域）で一つの部局を受け持つことも可能です。

4 今後の冬季フォーラム開催のありかた

冬季フォーラムが大がかりになるに連れ、年2回のフォーラム開催について様々な意見をいただくようになりました。一方、フォーラムの開催を一つのキッカケにその地域に融合の輪を広げたいと考えている方には、「もっと、気楽にフォーラムを開催できないだろうか」という意見もいただくようになりました。さらに、すでに各地で行われ始めている「学社融合フォーラム」について、融合研と共催で開催したいという声もあります。このような各地域での主体的な活動こそ融合研の活動の原点です。そこで、冬季フォーラムについては、本部開催とせず、

各地のミニフォーラムについて、その近隣の参加しやすい人が集まって開催・参加する方法を応援していく形をとる（講師陣の派遣や共催の形など、事務局までご相談ください）。

それらの内容をホームページ上に掲載し、会員や見た人が関心のある方が好きなところへ参加の選択をすればよいこと。

（このホームページの原案が、すでにホームページ上にたたき台として出ていますのでご覧ください）。

本部は、それとは別に年1回の全国フォーラムを開催すること

という方法を採用することにします。どうぞ、14年度にフォーラムを計画中のところは、どんな小さなものでも結構です。連絡ください。また日程が重なっても開催可能です。

5 会員継続の意志確認について（登録票の書き換えをお願いします）

融合研は、個人の意志で会員として一步を踏み出す人で構成されている手弁当の会です。どこからも補助金を得ていないので、どんな組織とも是々非々で運営できています。学社融合に志のある人であれば誰でも入会できます。一方、たとえば行政の職務上、融合の資料が必要であるからとの理由で入会したが、職務が変わったので退会したいという方もいます。融合研は、多くの人に学社融合の活動を推進していただきたいとは思いますが、会員の数が多いことを目指しているわけではありません。

そこで、これまでも会員継続の意志があるかどうかということを確認しながら運営してきました。今年度も「会員継続の意志確認」をいたします。どうぞ、しがらみ等にとらわれることなく退会の意志を表明して下さって結構です。今年度は、職場や連絡先・メールの有無等が変更になった人も増えてきましたので、入会の時に提出していただいた「登録票」を、再提出していただきます。

最近、メールでの情報交換が極めて盛んです。融合事例の参考になることが満載です。まだメー

メールアドレスを連絡をしてない方、およびこれから登録したい方は是非、加入をお勧めします。その際、メールでお知らせくださるようお願いいたします。なお、一日に10通以上入ることもありますので、登録後に削除したい場合は、連絡いただければすぐに削除できます。

登録用紙の提出は、

ファックス；047-445-3669 融合研事務局（宮崎）

ホームページ上にある「入会案内」から、メールで送る；miyazaki@jb3.so-net.ne.jp

郵送：〒273-0122 千葉県鎌ヶ谷市東初富3-23-6 融合研事務局（宮崎）

のいずれかで。

14年度より、年会費が3000円になりました(13年度総会で承認済み)。以下への振り込みをお願いします。

郵便局へ振り込んでいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(記号)10500 (番号)42592921 宮崎稔 (住所)285-0843 佐倉市中志津7-17-4 融合研

6 東北支部の設立

会員同士の交流も活発な東北地区の会員が「融合研東北支部」を立ち上げました。まだ支部活動としての特別なことは行っていませんが、これまでもメールやいくつかの地域ごとの活動に「部外者だけれど・・・」というような一言の元、駆けつけては交流をしていました。立ち上げの会は、上越地方へ出向いて合同研修を行う予定とか。

このように、それぞれの地域で支部を自由に設立して下さって構いません。現在、支部活動への補助などの取り決めは何もありませんが、増えてきたら会全体の議題として検討したいと思います。

7 その他(フリー討議より)

- ・ 融合研としての「融合理論」を出すべきではないか。フォーラム等で確認されている現在までのところまでよいし、今後理論が敷衍されれば付け足していけばよい。
- ・ 会報は、自由に投稿出来るようにしたい。そうして、「私こんなことやってます。」というような発表の場になれば。
- ・ 会員の活動範囲が膨大に広がっている。「範囲を絞れないか。」という意見もある。確かにメンバーリストに登場する内容を見ただけでもすごい。しかし、それぞれが、自分の主体的な意思で選択すればよいのであって、本部で選択することではない。また、今の活動では直接は関係なくても参考になることはたくさんあるからこのままでよい。
- ・ 「融合とはなにか」という質問をよく受ける。「これだ!」というものはないかもしれないが、フォーラム等を通して現段階で言えそうなことを、会報で伝えたらどうか。
- ・ 会員の近況「こんなことやってます」というようなことや、資料の窓を会報やホームページにつけたらどうか。

3 その他

会員のメールからの情報

土屋美智子さん；米国在住11年の体験から、保護者や地域の人が学校づくりに無理なく関わるアメリカの事例を数多く紹介してくれています。その中のほんの一例を以下に。

融合研のみなさん、こんにちは。先日のフォーラムでアメリカの危機管理についてお尋ねがありました。言葉が足りなかったのですが、続きはこれで読んでいただけたら、と思います。これも、実は融合の活動につながると思います。ご参考までに。どうぞよろしく。ご質問などおありでしたら、どしどしメールをください。未熟ものなので、一緒に考えるよい機会となります。お待ちしております。

=====

滞米生活11年の体験から

—学校開放と学校の安全管理を考える

臨床教育研究所「虹」研究員つちやみちこ



保護者や先生が見守る休み時間

休み時間を知らせるベルの音に続き、教室のドアが開くと、子どもたちが緑鮮やかな芝生の校庭へ飛び出して行く。羊飼いが子羊の群れを追うように、そのあとを先生がコーヒーマグを持ってゆっくり歩いて行く。校庭には子どもたちに混じり、校庭係りの保護者がいる。図書館には図書係りの保護者がいて、体育館にはホットランチの係の保護者が集まっている…。

この牧歌的な冒頭のシーンは、米国西海岸の学校の典型的なワンショットだ。それもハイテク産業のお膝元シリコンバレーの一角にある学校である。南に飛んでノースカロライナに転勤した時は、小さなモンテソーリ小学校にいた。同じ風景はそこでも見られ、休み時間やランチの校庭当番の先生は、その日ばかりはお気の毒に、慌ててお腹に何かを流し込むか、歩きながら食べて当番をこなしていた。

カリフォルニア州サンノゼ市のカソリック管轄区の学校では、生徒数280人に対して先生が2名、外で遊ぶ生徒を監督する規則がある。そこヘヤードデューティー(校庭係り)の親が入り8人体制で子どもたちを見守っている。これは公立も同じ、保護者が10時休みと12時のランチタイムに登場する。米国の学校は、お天気がいいと外のランチテーブルで食べる。ホットランチ(マクドナルドやピザ、ケンタッキーフライドチキンなどの注文ランチ)の日は、そこにホットランチ係りの親もいる。休み時間のトラブル解決に一役買ったり、一緒に遊んだりしながら、教育の場でモデルとして規範を示す保護者の存在は、子どもにも大人自身にも、気持ちのよい学びの場を提供し、さらに安全面でも優れた効果をあげている。

帰国して遠く感じる学校

帰国してから、「学校」が遠い存在になった。子どもは1人で学校へ行き、親は子どもの学級全員の名前を知らない。たまにある参観日では子どもの後ろ姿を見ているだけ。親のボランティアは当たり前、陰湿ないじめも学級崩壊もない恵まれた地域の学校を経験してきた者の目には、日本の学校は今なお陸の孤島に映る。

日本の安全神話に鋭い警鐘を鳴らした6月の池田小学校の事件。その余波は今なおすさまじい。実は、帰国の親の間で「危うい」ことの1つとして囁かれていたことがある。それは学校の無防備さだ—どこからも容易に出入りできる、チェック機能のない誰もいない受け付け—「何かがあってから、初めて変わるのだろうか」と、

心もとない思いを抱いていた。帰国して見る日本は、大人からはじまり社会規範までもが危うい。

我が家の子どもたちが米国の小学校に通っていた時、教室のドアは(休み時間以外は)原則として外から開けなかった。極めて安全な地域だったが、学校は低い塀で囲まれていて、訪問者はすべてオフィスが受け付ける構造になっていた。生徒も、遅刻・早退、医者に行く・帰ってくる、みなオフィス経由だ。「チェックイン」して教室へ戻り、「チェックアウト」をして学校を出る。忘れ物はオフィスを通じて届ける。授業時間内は親であろうが、許可がなければ教室へは行かれない。常にセクレタリーがいる。早退者も親を待つのはオフィスで。具合が悪いから迎えに来てという電話はみなオフィスからかかってきた。

先生の居場所は教室がいい

まだ気になることがある。日本の小・中学校の先生は、休み時間、職員室へ消えてしまう。しかし、私たちが体験した米国の学校では、子どもたちだけが放任状態で遊んでいることはなかった(シュタイナーやモンテソーリ他私立も同様)。そして、先生の居場所は自分の教室。ミーティング以外はいつも教室を自分のオフィスとして活用している環境も、学校を居心地のよいものにしている。娘の学校では、休み時間、先生や大人がいなければ、子どもたちだけで教室に残ることは禁止されていた。校長は、休み時間は校内を歩き回って子どもたちの中、下校時は交通整理をしながら保護者と談笑している。保護者も先生も壁がないコミュニケーションをとる。いいと思ったことは前向きに取り入れていく。いい学校は滞ってはいない。

日本にはこの種の「目配り」が圧倒的に不足してはいないだろうか。

学校は開いて守る

今回の衝撃的な事件の余波を受け過剰反応するあまり、やっとな若芽を伸ばし始めた学校開放の動きを、摘み取ってはならない。金属探知機も珍しくない米国で、私の知る学校は極めて幸運な学校かも知れない。しかし、危機管理はしっかりと、一方では、保護者を巻き込んだ地域と通ずる風通しのいい道があれば十分に可能だ。それは安全上からも、またいじめをはじめとする諸問題をも解決する突破口となりうる。学校は開いてがっちり守るのだ。

尊い幼い命の残したものを決して無駄にしてはならない。今まで学校任せにしておいた子どもたちを、今度は保護者と地域を含めた私たち皆の手で、守り育てる時代と認識したい。

(日本教育新聞社週刊「教育事情」掲載 720号 2001.7.20)

本の紹介「庄子平弥の挑戦」(案内パンフは、末尾に)

融合研副会長の庄子平弥さん取材して、若手レポーターが執筆した本がこのほど発刊されました。タイトルはまさに庄子さんの人生そのものといった感じです。これまで「仙台の怪老」との異名をとる庄子さんの人となり的一面を垣間見ることができるとともに、参考になることも多いと思いますので、是非ご一読ください。融合研事務局でも扱っていますのでご連絡ください。

(推薦、宮崎稔)

本の紹介「常識不信」(案内パンフは、末尾に)

メーリングリストの管理人をしてきている一色会員の関係者で発刊されたものです。不登校の子どもたち自らが執筆・編集したものです。子どもの心を理解することが難しい中で、不登校にな

った子どもたちが、「なぜ」「どんなことで」傷ついたかという背景がわかります。涙ナシには読むことができないところもあります。（推薦、宮崎稔）

この他にも、ホームページには紹介本があります。融合研のホームページには、推薦者がはっきりしていれば、「本の紹介」欄に掲載することができます。情報をおよせください。

プログラムバンク

融合研では、学社融合を進めるための手法を共有するという観点から、「人材バンク」ではなくて、「プログラムバンク」作りを進めています（責任者として、越田幸洋さん（鹿沼市石川小）に委員長をして戴いています）。今後ホームページにも掲載しながら、それぞれの活動の一覧を作成する予定です。会員の皆さんがお持ちの実践を、どうぞ事務局へ投稿してください。

会費は郵便局へ振り込んでください

これまで千葉銀行と郵便局とに融合研の口座を開設していましたが、どうも千葉銀行の方がうまく入金できないことがあるようでご迷惑をお掛けしているようです。原因を調べていますがはっきりしません。そこで申し訳ございませんが、

これからは、会費等は**郵便局へ**振り込んでいただきたいと思います。よろしく願います。

(記号)10500 (番号)42592921 宮崎稔 (住所)285-0843佐倉市中志津7-17-4融合研事務局が移転しましたが、振込先はそのままです。

2002年度からの会費は、3000円です。